

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

全日制普通科単位制高校として、全日制普通科単位制高校として、高き志を胸に、変化の激しい社会の中で、自らの未来を切り拓き、個性と能力を発揮できる「天高く翔る」人材の育成をめざす。 (めざす生徒像) 1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できる生徒 2 解決すべき課題にしっかりと取り組むことができる生徒 3 主体性をもって多様な人々と協働できる生徒

2 中期的目標

1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるよう「前に踏み出す力」を育成する。 (1) 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。 (2) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。 (3) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動を構築する。
2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。 (1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。 (2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みを進める。 (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善に取り組む。
3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する (1) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。 (2) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。 (3) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。
4 学校力の向上と効率的な学校運営 (1) 教育目標の実現に向けた情報共有、OJT、教職員研修を充実させる。 (2) 生徒の自己管理能力の向上と学校運営の効率化を図るための体制づくり、設備や情報基盤の整備を計画的に進める。 (3) PTA・後援会・同窓会（鳳友会）等と連携した教育活動を充実させるとともに、教育活動の理解促進に向けた広報・情報発信に努める。
※ 国公立大学進学者（H30 52 名→50 名超維持）、難関私立大学合格者（H30 177 名→200 名程度） ※ ガイダンス・進路指導に係る生徒の満足度90%以上をめざし維持する。（H30 ガイダンス 97% → 95%以上維持、H30 進路指導 85% → 90%） ※ 授業理解の肯定的評価が 80%以上をめざす。（H30 75% → 80 以上）、 ※ 生徒の自己管理能力の肯定的評価（H30 72% → 80%）の向上及び、生徒・教職員のギャップを縮める。（H30 27 ポイント → 20 ポイント未満） ※ 生徒・保護者の学校満足度「入学して満足」が90%をめざす。（生徒：H30 80% → 85%超、保護者：H30 89%、90 以上）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるよう「前に踏み出す力」を育成する。	(1) 生徒が主体的に取り組む教育活動を充実させる。 (2) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。 (3) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動を構築する。	①総合的な探究の時間、LHR等を充実させ、計画的に実施する。 ・進路学習・キャリア教育の内容、実施時期・提供方法の工夫 ・学校行事・学年行事等との連動 ・長期休暇中等の講習を継続・充実 ② 生徒が最適な科目選択を行えるよう、生徒自ら進路の資料・情報を収集し咀嚼する機会を計画的に提供する。 ・全教員によるガイダンス(年2回)及び科目選択申請書点検。 ・専門家による説明会、講演会等を活用して将来のイメージを具体化させる。 ・学習や進路意識の診断結果等を活用した懇談・ガイダンスを充実させる。 ③ 委員会・WG での検討を進め、普通科単位制の特色を生かした新教育課程を作成する。 ④ 生徒の学習状況、進路等のデータ分析や情報共有を推進する。その際、外部テスト等も活用して効率・効果を高める。 ⑤ e-ポートフォリオ等、生徒の学びを記録・活用するシステムを整備する。	1「前に踏み出す力」の育成に係る総合評価 ○実施状況 ・専門家等による進路講演・説明会、課外の進路イベント等への生徒の参加状況 ・総合的な探究の時間を核にカリキュラムの検討と案の作成 ・生徒の学びを記録・活用するシステムの整備 ○自己診断等の結果 ・ガイダンスへの肯定的評価の維持（H30/97%） ・コース選択や進路情報の提供、将来の生き方や進路について考える機会の提供への肯定的評価※ ・講習への肯定的評価※ ・自分は積極的に学校行事に参加した※ ・生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている。※ ・センター試験受験者の平均点が全科目で全国平均を上回る。 ※自己診断等の新項目・指標（以下、同様）	

府立鳳高等学校

2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。	(1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。 (2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取り組みを進める。 (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善に取り組む。	① 校内教職員研修の充実 ・教科を超えた授業見学や若手教員の資質向上を図る取り組みを推進する。 ・ICT の活用等による主体的・対話的で深い学びや英語4技能育成のための授業研究を推進する。 ・授業アンケート、外部テスト等の結果を授業改善に生かす。	2 「考え抜く力」の育成に係る総合評価 ○実施状況 ・教員相互の校内授業見学週間の実施 ・若手教員研修を核に校内研修・情報交換会を実施、特に進路指導関係 ・校外の研究・研修会への参加及び情報共有 ○自己診断等の結果 ・アンケートの肯定的評価 「授業理解」(H30 75%) 「教材やICT 機器の活用」※ 「生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」※ ・外部テストの状況※ ・学校行事・自治会活動への肯定的評価 「自分は積極的に学校行事に参加した」※	
3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する	(1) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。 (2) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。 (3) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。	①日常の指導と強化週間とを効果的に連動させる。 ・登下校時の安全指導(特に自転車指導)の実施 ・「朝の読書」の時間やSHR の活用 ・「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。 ②人権 HR、人権映画鑑賞や教職員研修を柱に据えて取り組む。 ③学校行事、オーストラリア国際交流研修、スピーチコンテストやプレゼンテーション大会等を活かして、多様な価値観に触れたり、協働したりする活動を設定し、コミュニケーション力を高める。 ④社会貢献の機会を積極的に提供し、推進する。 ⑤教育相談委員会やスクールカウンセラーとのケース会議を通して、課題を抱える生徒の情報共有、適切な対応を進める。 ・教育相談室を生徒にとってさらに安心できる場所となるよう充実を図る。 ・薬物乱用防止のための取り組みを継続する。	3 「自立した個人」の育成に係る総合評価 ○実施状況 ・生活確立週間や課題への即時対応 ・国際交流研修、スピーチコンテスト、プレゼンテーション大会等の実施状況 ・社会貢献活動の啓発・取組 ・教育相談委員会・ケース会議と教職員研修の実施状況。 ・薬物乱用防止等喫緊の課題への対応状況 ○自己診断等の結果 ・遅刻登校者数(3000 件未満)の維持 ・生徒の自学自習時間の向上 ・部活動加入率(89%)の維持 ・「学習と部活動の両立ができている」※ ・学校行事等への評価※ ・生徒の「ボランティア等に参加した」※ ・生徒の「自己管理能力は十分にある」の維持と教職員とのギャップ縮小 (H30/72%、ギャップ 27ポイント) ・生徒「悩みや相談がしやすい」の向上 (H30/40%)	
4 学校力の向上と効率的な学校運営	(1) 教育目標の実現に向けた情報共有、OJT、教職員研修を充実させる。 (2) 生徒の自己管理能力の向上と学校運営の効率化を図るための体制づくり、設備や情報基盤の整備を計画的に進める。 (3) PTA・後援会・同窓会(鳳友会)等と連携した教育の充実、並びに生徒募集・広報活動の充実を図める。	①学校協議会等の意見・提言を共有し、学校運営の改善に生かす。 ②ICT の整備を進め、緊急連絡方法の充実、会議の効率化やペーパーレス化を進める。 ③生徒の状況や生徒指導・進路指導等のデータベースの整備と活用を進める。 ④効果的な広報活動を推進する。 ・創立 100 周年実行委員会発足・参画 ・地域向け「鳳高新聞」の継続発行 ・広報活動の充実、効率化のため、HP のリニューアルと更新、説明会等への参加。 ⑤月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を行う。	4 学校力の向上に係る総合評価 ○実施状況 ・ICT や各種データベースの整備状況 ・学校説明会実施の工夫、要請のあった説明会への参加状況。 ・地域向け「鳳高新聞」の発行(年 3 回) ・ノークラブデー等の完全実施。 ○自己診断等の結果 ・教員の ICT 機器活用状況(5 割以上) (H30/36%) ・学校 HP のアクセス状況 ・月 80 時間以上の時間外労働教職員数及び産業医からの評価※	